

次世代自動車センター浜松 活動レポート Vol. 328

■ IAA MOBILITY 2025 観察 Web 報告会（会員限定）

2025年9月9日から14日にかけて、ドイツ・ミュンヘン市の「ミュンヘン見本市会場」を中心会場として、欧州最大のモーターショーであり、欧州の自動車産業動向を知る重要な場となっているIAA MOBILITY 2025（ミュンヘンモーターショー）が開催されました。

次世代自動車センター浜松では、次世代自動車に関する最新情報を収集する一環として観察を行い、観察レポートを取りまとめました。

今回、会員企業の皆様に、次世代自動車技術のトレンドや企業の取り組みについての最新情報を得る機会としてご活用いただくため、当センターの望月センター長が講師となって、レポートに基づいて、IAA MOBILITY 2025に出展された自動車メーカーや部品メーカーの最新次世代自動車技術について、Webセミナー形式で報告会を開催しました。

■日 時：2025年12月10日（水）13時30分～15時

■場 所：Web形式

■参加者：95社／295名



【参加者の声】

- ・グローバル市場動向を捉えたうえで、視察報告されているのが、とても参考になった。またテーマ概要を4つにまとめていたので、とてもわかりやすかった。
- ・現在のグローバル市場の動向や各完成車メーカー・部品メーカーが掲げているテーマなどを知ることができた。また、自動車の電動化が進んでいく中で、各企業が電気自動車に向けた製品づくりに力を入れていることを再確認できた。
- ・各OEM・部品メーカーのSDV・熱マネ・統合化の傾向等の情報を聞くことができた。
- ・電動パワートレインの小型化やXin1の統合化が進んでいるなどの情報収集ができた。また、たくさんの写真紹介もあり大変良かった。
- ・IAA MOBILITYでテーマにされていた最新の動向、またEVの各動力方式のパワートレインについても知ることができた。グローバル市場動向のセクションではさまざまな切り口からEV市場の現況がわかり大変参考になった。
- ・電動パワートレインを中心從来の部品単体を組み合わせる部分最適の事業形態から車両システムとして最適化を図る全体最適(Xin1)が進んでいることが理解できた。同時にどのような施策をとればこの先も生き残っていけるのかを改めて考える良い機会となった。
- ・EV普及率の地域差とそれに伴う各国の政策やメーカーの戦略を確認できたことが印象的だった。欧州の環境規制強化と中国の量産・価格競争の動きは、今後の業界動向を考えるうえで重要だと感じた。
- ・部品メーカーがコンポーネントとして供給する流れが広がれば、今後は完成車メーカーに対して今まで以上に大きな影響力を持つようになるのではと感じた。
- ・各国メーカーの取り組みや部品開発の傾向などがよくわかった。また、世界動向と環境への取り組みについても知ることができた。中国メーカーの台頭が顕著に見られた。
- ・日本開催のモビリティショーとは異なった分野や方向性が見え非常に参考となった。中国メーカーのEVに対して技術力・見せ方・コストなど、日本メーカーがEV分野で勝つために競争力をどう高めるかが課題と感じた。
- ・グローバルなEV市場動向や欧州の最新規制、主要メーカーの技術戦略など、今後の事業展開に直結する情報が網羅的に整理されており、非常に参考になった。
- ・今回のIAA MOBILITYでは、世界の自動車産業が電動化とスマート化に向けて急速に進化していることを実感した。特に、電動パワートレイン、インテリジェントコックピット、自動運転技術の展示は非常に印象的だった。今後の技術トレンドをより明確に把握でき、当社の製品開発における課題と方向性を再確認する良い機会となった。
- ・現在のグローバル市場やメーカーの動向が感じられた。特に自動運転をテーマとしてAIの活用と部品メーカーの電動化対応が進んでいた。
- ・ここ数年EV・PHEVの世界販売台数が急増している中で、売上上位10社中6社が中国社という点に驚いた。今後、世界的にEVの普及が進む中、充電ステーションの増設がポイントとなるが、各国の政策や技術革新により、価格面のハードルも下がりつつあるので今後の動向に興味が沸いた。
- ・電動化の流れは継続している印象を受けた。技術は進んでいるのに、特に日本では給電設備の普及が遅れている印象があり、インフラがいつ整うか次第になると思った。
- ・欧州市場のEV販売動向や中国メーカーの存在感、さらにバッテリー関連の最新トレンドについて整理された情報を得ることができた。特に欧州市場の低迷が今後どのような影響を与えるかという視点は非常に興味深く、業界の変化を考えるうえで参考になった。
- ・パワートレインの世界の最新動向がわかり、参考になった。BEVよりもHEVが増加傾向にあり、内燃機関の需要も引き続きあることがわかった。